

図2-4. 発生場所(処方・与薬)

発生場所	件数
外来診療室	266
外来待合室	4
外来その他の場所	78
救急処置室	31
ナースステーション	1942
病室	6426
処置室	444
浴室	5
その他病棟内	134
手術室	64
分娩室	3
ICU	303
CCU	99
NICU	153
その他の集中治療室	168
検査室	9
機能訓練室	1
IVR治療室	2
放射線撮影室・検査室	23
核医学検査室	1
放射線治療室	4
透析室	21
薬局・輸血部	123
トイレ	3
廊下	6
不明	14
その他の場所(院内)	20
その他の場所(院外)	19
不明	1
合計	10367

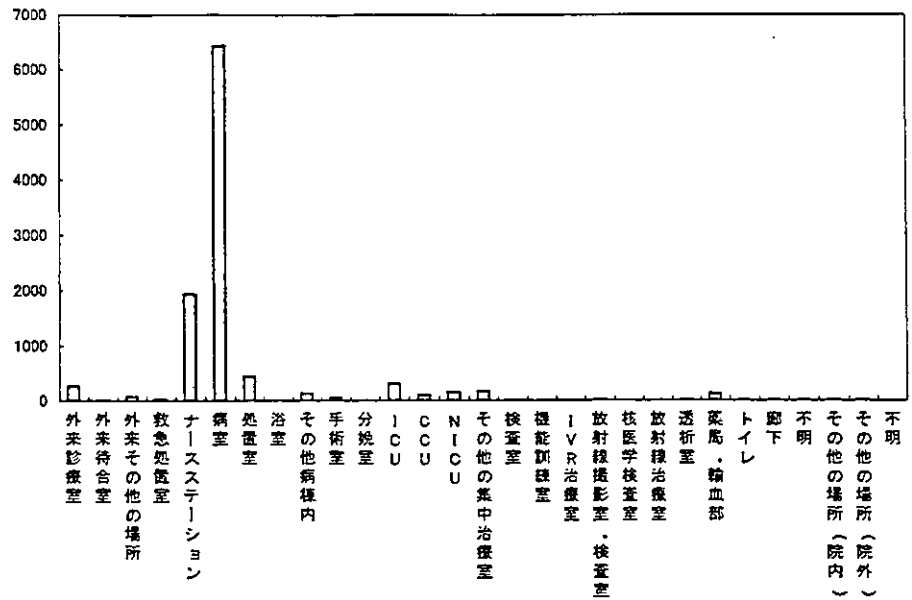


図2-5. 患者の性別(処方・与薬)

性別	件数
男性	5038
女性	3825
患者複数	24
不明	1480
合計	10367

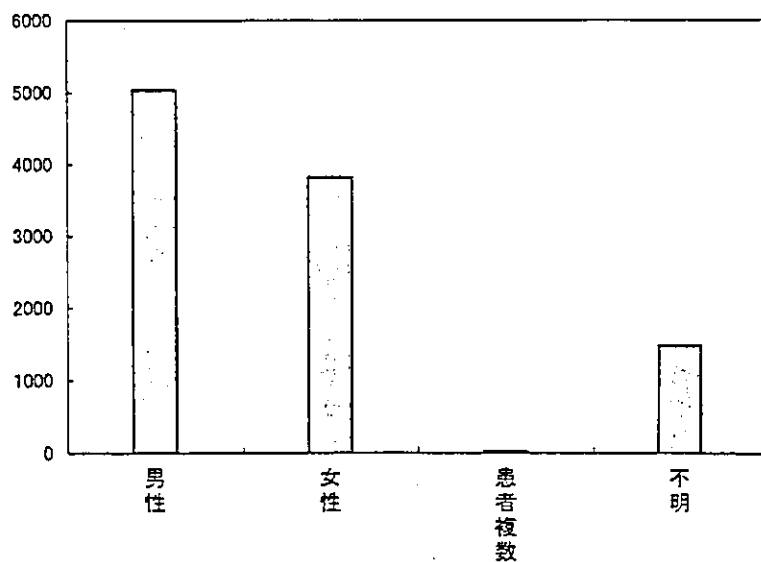


図2-6. 患者の年齢(処方・与薬)

年齢	件数
0~10歳	861
11~20歳	397
21~30歳	496
31~40歳	524
41~50歳	634
51~60歳	1222
61~70歳	1781
71~80歳	1802
81~90歳	628
91~100歳	66
患者複数	29
不明	1927
合計	10367

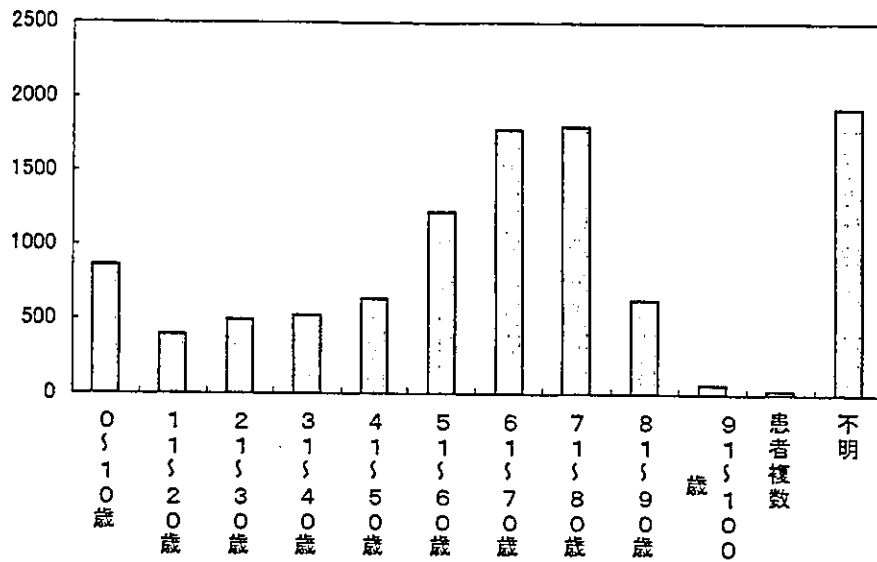


図2-7. 患者の心身状態(処方・与薬)

(複数回答)

患者の心身状態	件数
意識障害	851
視覚障害	241
聴覚障害	153
嗅覚障害	188
精神障害	435
痴呆・健忘	417
上肢障害	701
下肢障害	906
歩行障害	1033
床上安静	1762
睡眠中	212
せん妄状態	122
薬剤の影響下	332
麻酔中・麻酔前後	175
障害なし	4101
不明	934
その他	1132
合計	13695

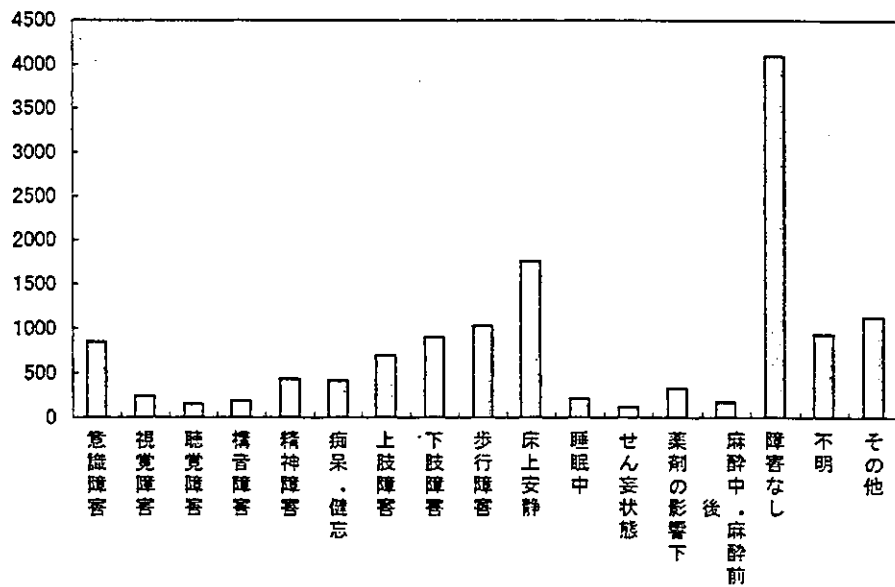


図2-8. 発見者(処方・与薬)

発見者	件数
当事者本人	4014
同職種者	4828
他職種者	710
患者本人	382
家族・付き添い	136
他患者	12
不明	7
その他	278
合計	10367

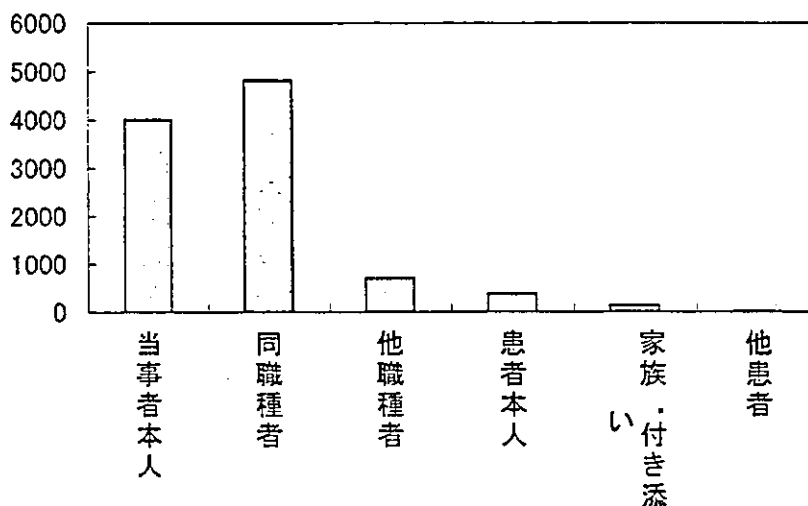


図2-9. 当事者の職種(処方・与薬)

(複数回答)

当事者の職種	件数
医師	658
歯科医師	10
助産師	101
看護師	9206
准看護師	238
看護助手	33
薬剤師	177
管理栄養士	1
栄養士	0
調理師・調理従事者	0
診療放射線技師	2
臨床検査技師	0
衛生検査技師	1
理学療法士	1
作業療法士	1
言語聴覚士	0
歯科衛生士	1
歯科技工士	0
視能訓練士	0
精神保健福祉士	0
臨床心理士	0
社会福祉士	0
介護福祉士	0
臨床工学技師	0
児童指導員・保育士	6
事務職員	13
不明	26
その他	63
合計	10538

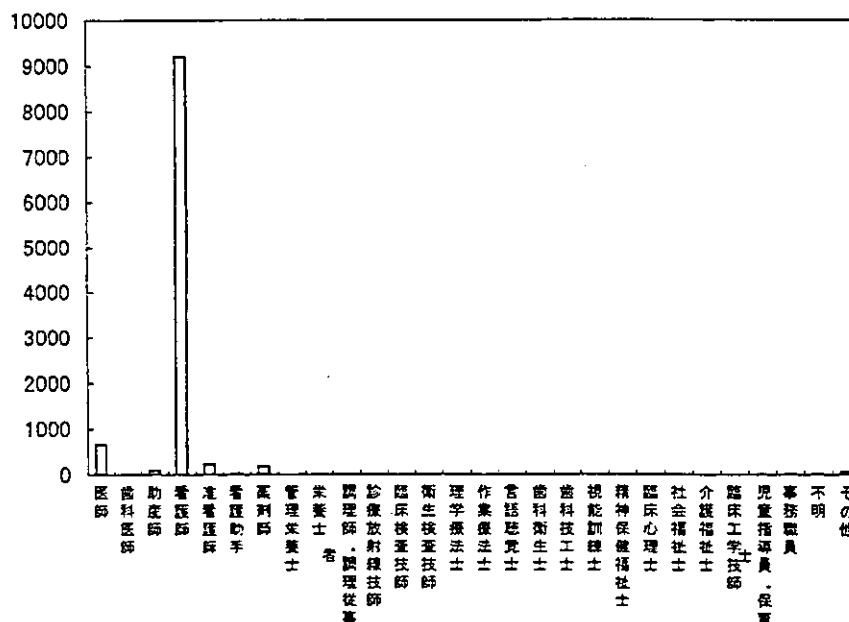


図2-10. 当事者の職種経験年数(処方・与薬)

当事者の職種経験年数	件数
0年	2602
1年	1084
2年	835
3年	710
4年	587
5年	456
6年	360
7年	281
8年	244
9年	219
10年	236
11~20年	1301
21~30年	724
30年超	123
当事者複数	241
年数不明	364
合計	10367

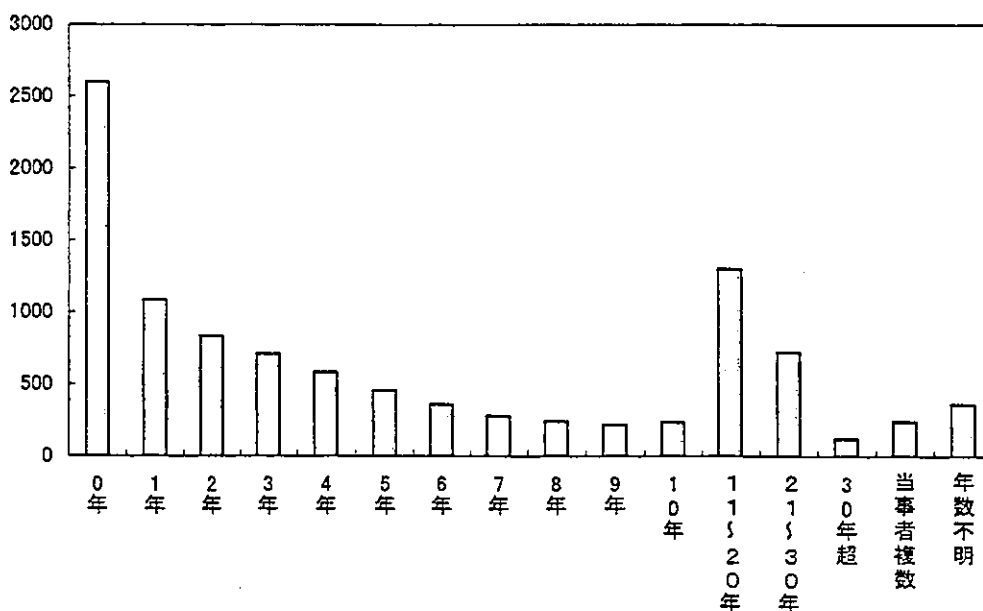


図2-11. 当事者の部署配属年数(処方・与薬)

当事者の部署配属年数	件数
0年	4069
1年	1752
2年	1196
3年	909
4年	586
5年	378
6年	214
7年	136
8年	100
9年	72
10年	55
11~20年	131
21~30年	23
30年超	8
当事者複数	241
年数不明	497
合計	10367

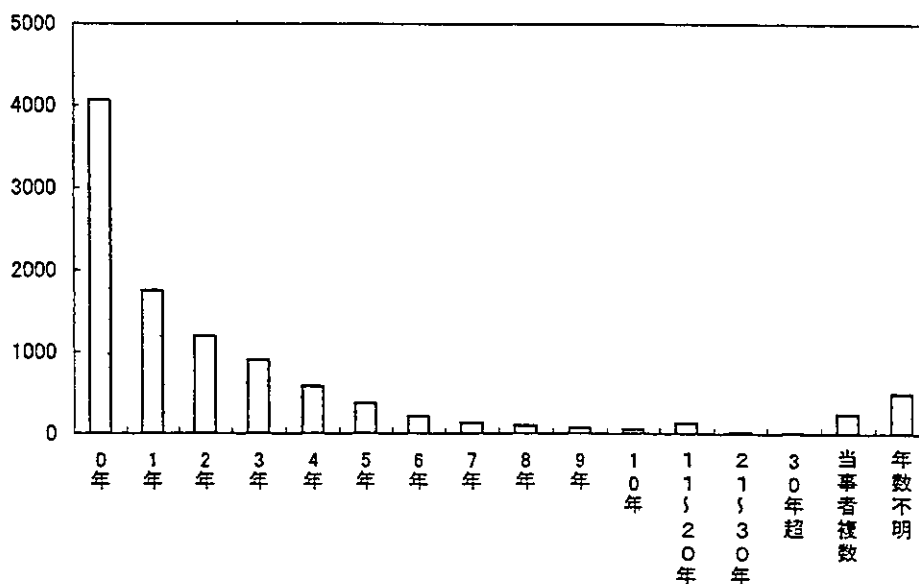


図2-12. 発生場面・詳細(処方・与薬)

発生場面	件数
皮下・筋肉注射	884
静脈注射	1251
動脈注射	30
末梢静脈注射	2236
中心静脈注射	1151
内服	4156
外用	210
坐剤用	122
吸入	69
点鼻・点眼・点耳	100
その他の処方・与薬に関する場面	158
合計	10367

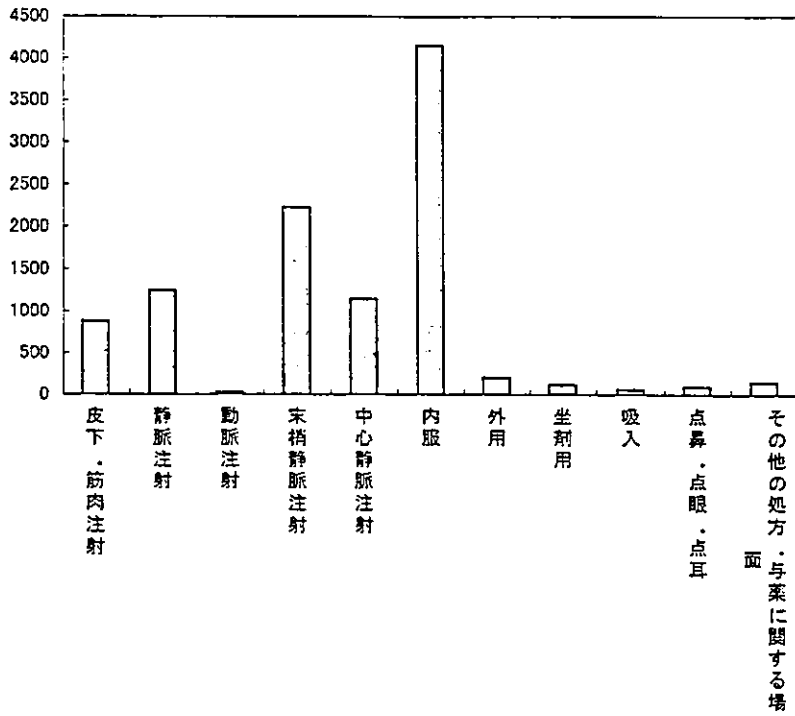


図2-13-① 発生内容(処方・与薬)

発生内容	件数
オーダー指示出し、情報伝達過程に関する項目	426
診察、手術、麻酔、出産、その他の治療、処置に関する項目	378
処方・与薬	3635
薬剤・製剤管理等	440
薬剤・血液製剤管理	142
輸血	96
医療用具(機器)の使用・管理	348
ドレーン・チューブ類の使用・管理	1429
検査	673
療養上の世話・療養生活の場面	2121
給食・栄養	362
物品搬送	12
放射線管理	10
診療情報管理	95
患者・家族への説明	49
施設・設備	23
その他	128
合計	10367

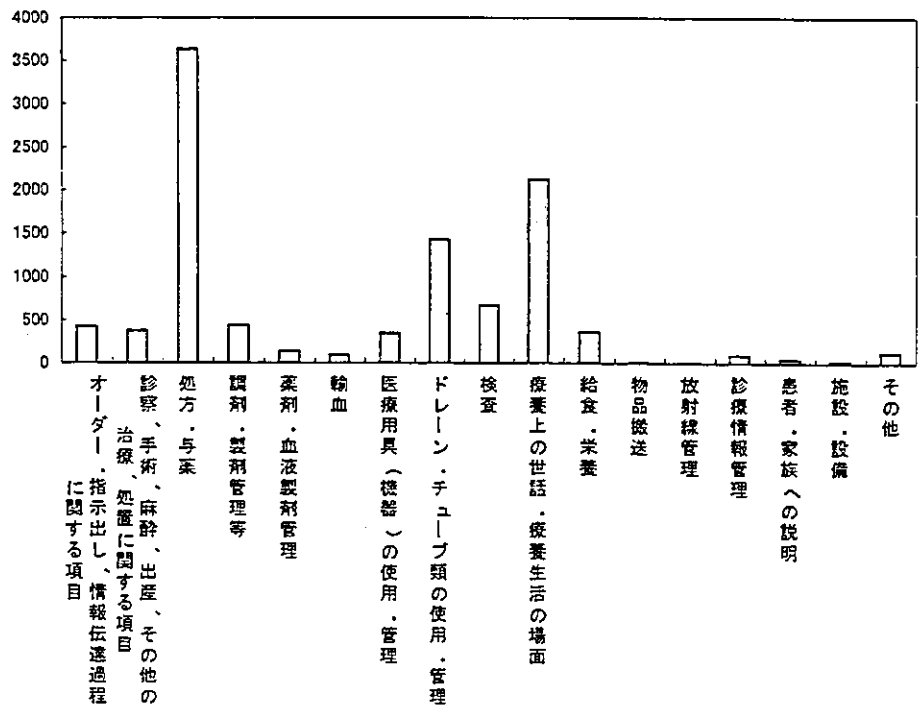


図2-13-② 発生内容・詳細(処方・与薬)

発生内容	件数
処方量間違い	88
過剰与薬	392
過少与薬	288
与薬時間・日付間違い	345
重複与薬	114
禁忌薬剤の組合せ	17
投与速度遅すぎ	263
投与速度速すぎ	72
その他の投与速度のエラー	24
患者間違い	237
薬剤間違い	328
単位間違い	63
投与方法間違い	140
無投薬	861
処方・与薬のその他のエラー	393
合計	3635

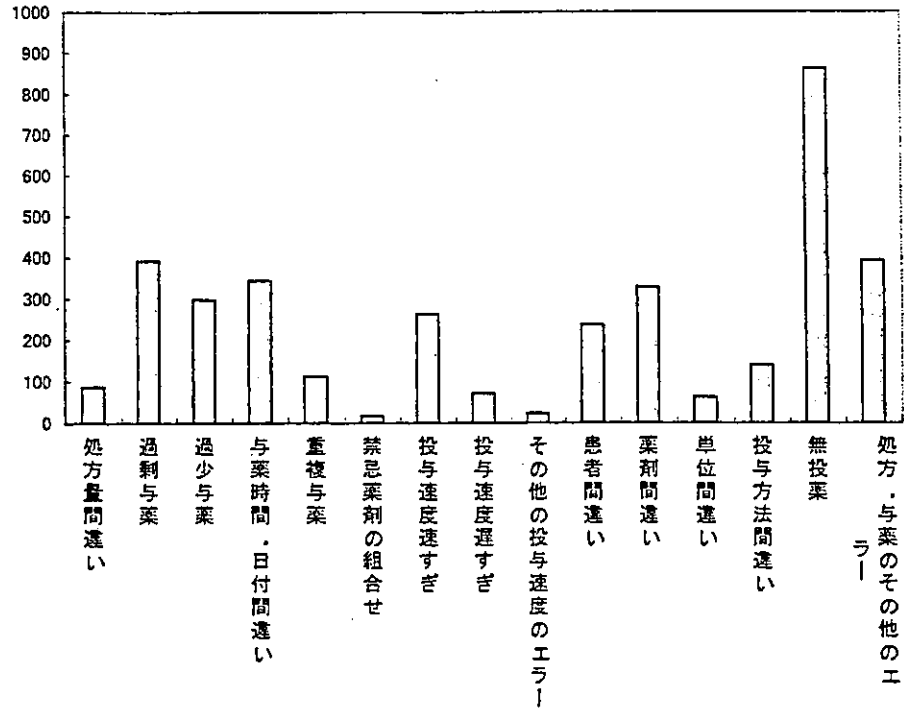


図2-14. 発生要因(処方・与薬)

発生要因	件数
確認	6356
観察	2322
判断	1333
知識	489
技術	295
報告等	282
身体的条件	189
心理的条件	1858
システム	777
連携	1366
記録等の記載	190
患者の外見	59
勤務状況	2073
環境	96
医療機器・器具・材料	163
薬剤	340
陪物品	94
施設・設備	37
教育・研修	509
患者・家族への説明	862
合計	19690

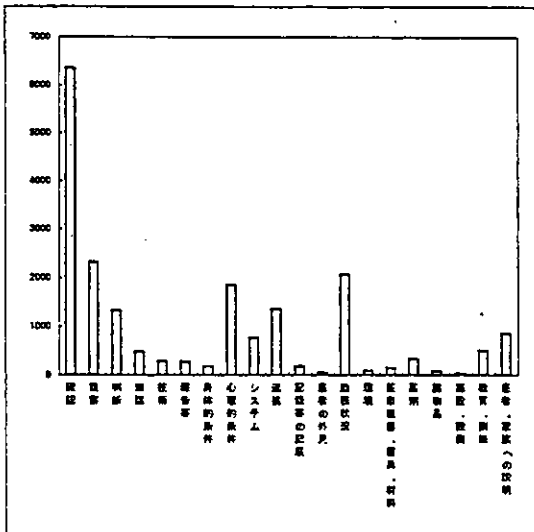


表2-1. 発生要因・詳細(処方・与薬)

用件	内容	件数
確認	確認が不十分であった	2322
	値でていた	504
心理的条件	イライラしていた	37
	緊張していた	60
	他のことに気を取られていた	386
	思い込んでいた	694
	無意識だった	177
勤務状況	多忙だった	1153
	勤務の管理に不備	22
	作業が中断した	86
	当直だった	39
	当直明けだった	15
	夜勤だった	713
	夜勤明けだった	45
観察	観察が不十分であった	6356
連携	医師と看護師の連携不適切	369
	医師と技術職の連携不適切	20
	医師と事務職の連携不適切	3
	医師間の連携不適切	30
	看護職間の連携不適切	830
	技術職間の連携不適切	39
	他職種間の連携不適切	75

図2-15. 影響度(処方・与薬)

	件数
間違いが実施されたが、患者への影響は小さかった(処置不要)	1457
実施されていても患者への影響は中等度	285
実施されていても患者への影響は大きい	30
間違いが実施されたが患者に影響がない	8173
不明	17
その他	405
合計	10367

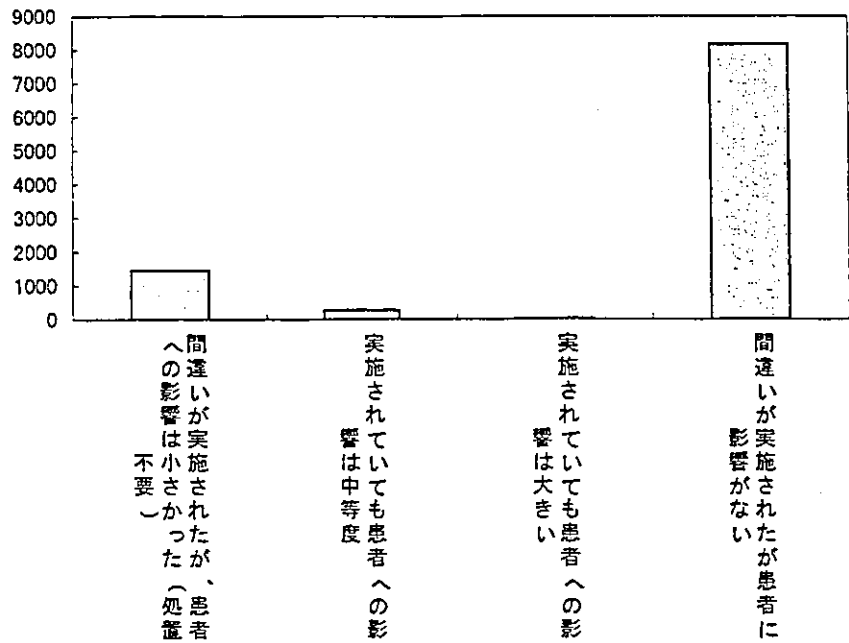


表2-2. 発生場面×発生内容(処方・与薬)

	処方量間違い	過剰与薬	過少与薬	与薬時間・日付間違い	重複投与	禁忌薬剤の組合せ	投与速度速すぎ	投与速度遅すぎ	その他の投与速度のエラー	患者間違い	薬剤間違い	単位間違い	投与方法間違い	無投薬	処方・与薬のその他のエラー	合計
与薬準備	48	130	88	128	31	3	3	1	2	86	160	30	43	243	305	1301
皮下・筋肉注射	12	98	59	86	21	0	1	1	1	17	99	46	44	293	85	863
静脈注射	26	140	81	97	16	8	118	21	13	101	142	27	68	225	104	1187
動脈注射	1	5	8	1	0	0	3	1	0	1	2	2	2	0	2	28
末梢静脈点滴	16	199	150	100	26	6	557	90	13	175	181	36	67	338	192	2176
中心静脈注射	4	116	75	29	9	5	275	91	20	42	88	13	43	182	112	1107
内服	122	456	351	455	207	8	0	1	4	271	194	31	125	1473	375	4073
外用	9	14	7	28	3	1	0	0	1	12	23	1	16	62	21	198
坐剤用	2	16	4	11	3	5	0	0	0	3	22	6	3	32	15	122
吸入	0	10	4	1	0	0	0	0	0	4	7	0	4	29	10	69
点鼻・点眼・点耳	0	2	0	7	1	1	0	0	0	7	18	0	20	19	14	89
その他の処方・与薬に関する場面	3	18	11	11	1	1	1	3	1	6	12	4	6	30	42	150
合計	243	1204	838	954	318	38	991	209	55	725	948	196	441	2926	1277	11363

表2-3. 発見者×当事者の職種(処方・与薬)

	医師	歯科医師	助産師	看護師	准看護師	看護助手	薬剤師	管理栄養士	栄養士	調理師・調理従事者	診療放射線技師	臨床検査技師	衛生検査技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	歯科技術士	視能訓練士	精神保健福祉士	臨床心理士	社会福祉士	介護福祉士	臨床工学士	児童指導員・保育士	事務職員	不明	その他	合計
当事者本人	153	2	40	3680	112	7	24	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	9	4035
同職種者	73	1	44	4607	104	10	16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	5	4865	
他職種者	303	6	6	283	10	13	95	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	2	3	731
患者本人	45	0	7	301	5	1	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	2	387
家族・付き添い	14	0	1	110	2	2	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	138
他患者	1	0	1	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
不明	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
その他	68	1	2	212	4	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	14	42	362	
合計	658	10	101	9206	238	33	177	1	0	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	13	26	63	10538	

表2-4. 当事者の職種×発生場面(処方・与薬)

	医師	歯科医師	助産師	看護師	准看護師	看護助手	薬剤師	管理栄養士	栄養士	診療放射線技師	臨床検査技師	衛生検査技師	理学療法士(P.T)	作業療法士(O.T)	言語聴覚士	歯科衛生士	歯科技術士	視能訓練士	精神保健福祉士	臨床心理士	社会福祉士	介護福祉士	臨床工学士	児童指導員・保育士	事務職員	不明	その他	合計
皮下・筋肉注射	46	1	4	805	26	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	896
静脈注射	120	0	23	1079	32	3	10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1274
動脈注射	5	0	0	25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
末梢静脈注射	105	2	43	2048	38	2	12	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20	2274
中心静脈注射	34	0	2	1098	20	5	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1165
内服	289	6	25	3599	101	20	124	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	13	22	24	4231
外用	30	1	1	156	6	2	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	211
坐剤用	6	0	2	109	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102
吸入	1	0	0	64	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69
点鼻・点眼・点耳	6	0	0	90	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102
その他の処方・与薬に関する場面	16	0	1	133	4	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	163
合計	658	10	101	9206	238	33	177	1	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	6	13	26	63	10538	



表2-5. 発生内容×影響度(処方・与薬)

	間違いが実施され たが、患者への影 響は小さかった (処置不要)	実施されていても 患者への影響は中 等程度	実施されていても 患者への影響は大 きい	間違いが実施され ないが、患者に影 響がなかった	不明	その他	合計
処方量間違い	115	18	2	95	1	12	243
過剰与薬	194	34	7	921	1	47	1204
過少与薬	99	14	1	682	0	42	838
与薬時間・日付間違い	190	27	0	695	3	39	954
重複与薬	57	14	0	238	2	7	318
禁忌薬剤の組み合わせ	9	4	0	23	0	2	38
投与速度速すぎ	52	12	2	907	0	18	991
投与速度遅すぎ	14	2	1	188	0	4	209
その他の投与速度のエラー	9	1	0	38	0	7	55
患者間違い	143	26	4	532	1	19	725
薬剤間違い	241	42	7	592	3	63	948
単位間違い	48	12	1	127	1	7	196
投与方法間違い	104	10	3	301	1	22	441
無投薬	377	65	2	2366	2	114	2926
処方・与薬その他のエラー	389	59	5	742	2	80	1277
合計	2041	340	35	8447	17	483	11363

表2-6. 発生内容(患者間違い)×影響度(処方・与薬)

	間違いが実施され たが、患者への影 響は小さい (処置不要)	実施されていても 患者への影響は 中等程度	実施されていても 患者への影響は 大きい	間違いが実施され ないが、患者に影 響がなかった	不明	その他	合計
与薬準備	46	8	2	28	0	2	86
皮下・筋肉注射	1	1	0	13	0	2	17
静脈注射	9	4	1	84	0	3	101
動脈注射	0	0	0	1	0	0	1
末梢静脈点滴	14	3	0	155	0	3	175
中心静脈注射	5	0	1	36	0	0	42
内服	56	10	0	196	1	8	271
外薬	6	0	0	5	0	1	12
坐剤用	0	0	0	3	0	0	3
吸入	2	0	0	2	0	0	4
点鼻・点眼・点耳	2	0	0	5	0	0	7
その他の処方・与薬に関する場	2	0	0	4	0	0	6
合計	143	26	4	532	1	19	725

## 全般コード化情報

# ドレーン・チューブの使用・管理 (単純集計・クロス集計)

図3-1. 発生月(ドレーン・チューブ)

発生月	度数
1月	230
2月	328
3月	262
4月	377
5月	522
6月	438
7月	481
8月	374
9月	357
10月	417
11月	454
12月	419
不明	4
合計	4663

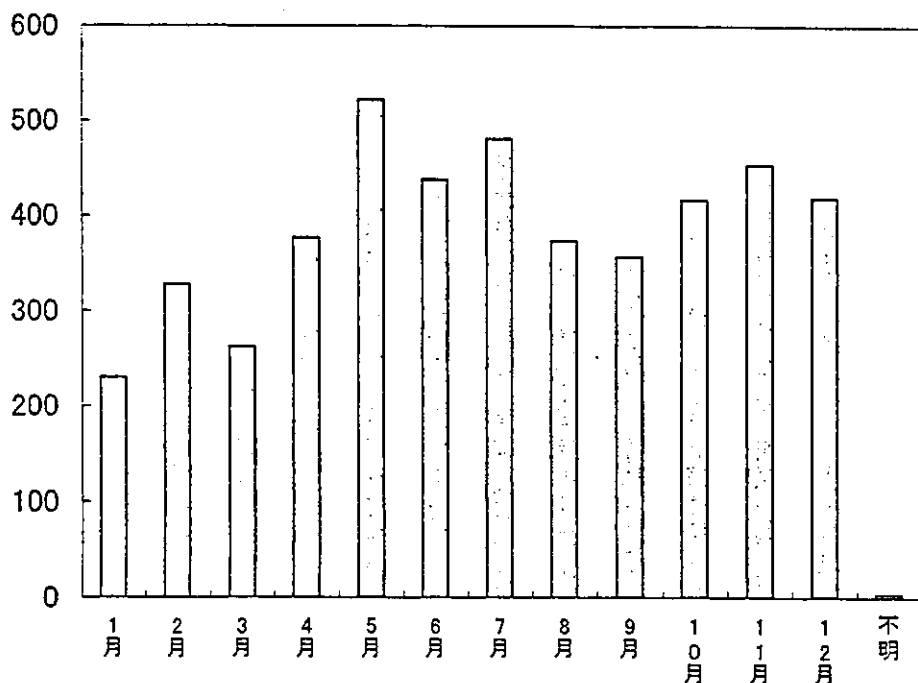


図3-2. 発生曜日(ドレーン・チューブ)

	平日	祝祭日	不明	合計
月曜日	552	48	0	600
火曜日	659	11	0	670
水曜日	689	3	0	692
木曜日	722	9	0	731
金曜日	739	22	0	761
土曜日	389	206	0	595
日曜日	8	600	0	608
不明	1	1	4	6
合計	3759	900	4	4663

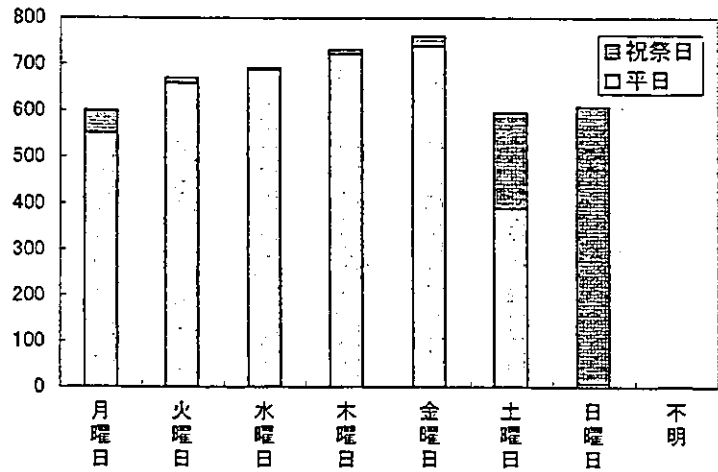


図3-3. 発生時間帯(ドレーン・チューブ)

発生時間帯	件数
0~1時台	392
2~3時台	372
4~5時台	318
6~7時台	460
8~9時台	379
10~11時台	385
12~13時台	302
14~15時台	352
16~17時台	368
18~19時台	386
20~21時台	368
22~23時台	448
不明	123
合計	4663

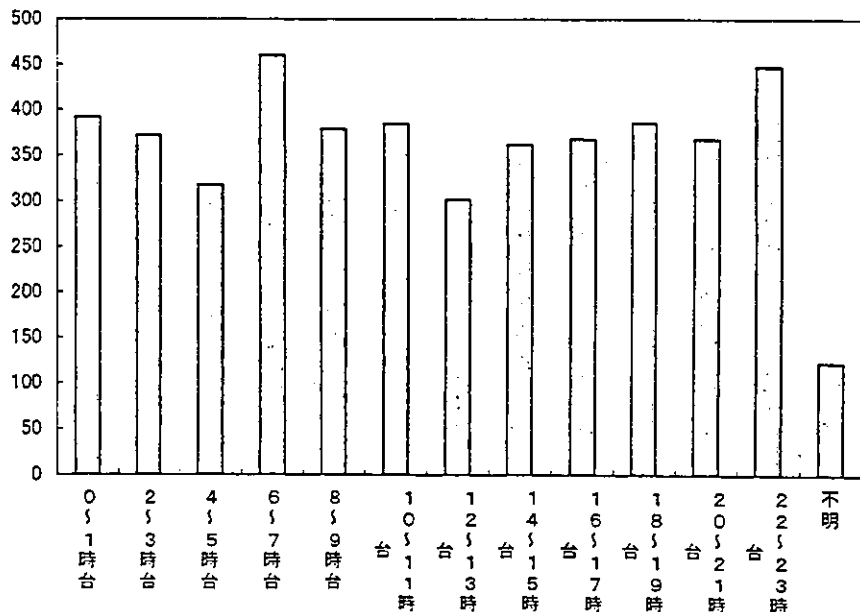


図3-4. 発生場所(ドレーン・チューブ)

発生場所	件数
外来診療室	3
外来待合室	3
外来その他の場所	7
救急処置室	1
ナースステーション	53
病室	3481
処置室	46
浴室	12
その他病棟内	39
手術室	46
分娩室	3
ICU	496
CCU	90
NICU	108
その他の集中治療室	167
検査室	4
機能訓練室	8
放射線撮影室・検査室	30
核医学検査室	1
放射線治療室	2
透析室	31
トイレ	10
廊下	10
不明	5
その他の場所(院内)	5
その他の場所(院外)	2
合計	4663

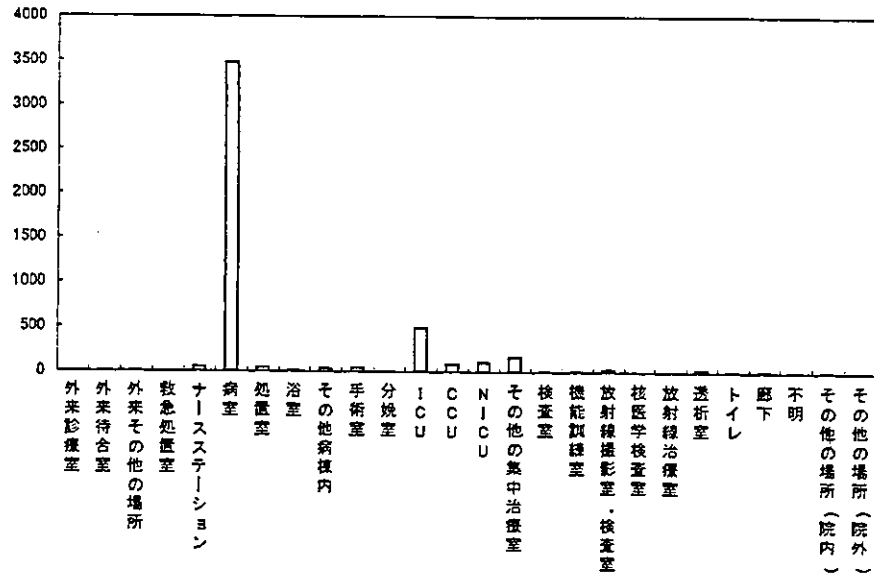


図3-5. 患者の性別(ドレーン・チューブ)

性別	件数
男性	2555
女性	1547
不明	561
合計	4663

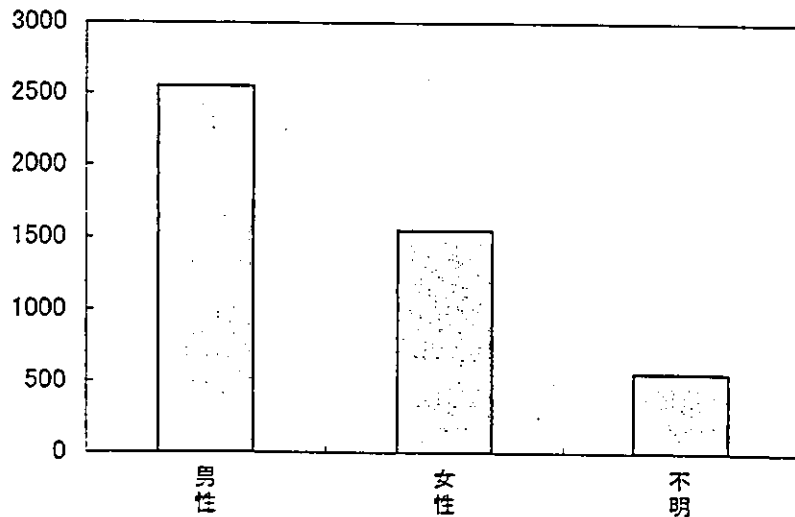


図3-6. 患者の年齢(ドレーン・チューブ)

年齢	件数
0~10歳	401
11~20歳	119
21~30歳	177
31~40歳	177
41~50歳	182
51~60歳	502
61~70歳	774
71~80歳	990
81~90歳	477
91~100歳	72
不明	792
合計	4663

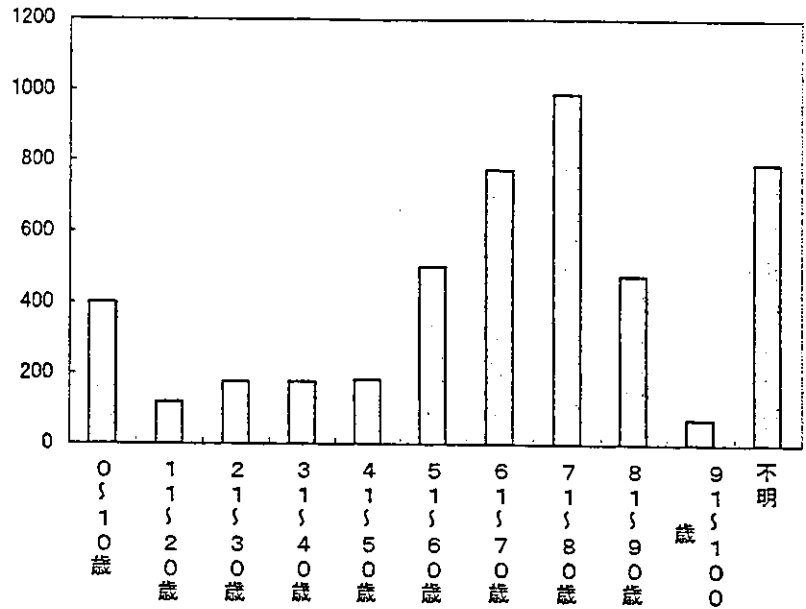


図3-7. 患者の心身状態(ドレーン・チューブ)

(複数回答)

患者の心身状態	件数
意識障害	808
視覚障害	60
聴覚障害	85
構音障害	139
精神障害	200
痴呆・健忘	522
上肢障害	281
下肢障害	394
歩行障害	355
床上安静	1523
睡眠中	247
せん妄状態	578
薬剤の影響下	413
麻酔中・麻酔前後	136
障害なし	789
不明	303
その他	497
合計	7330

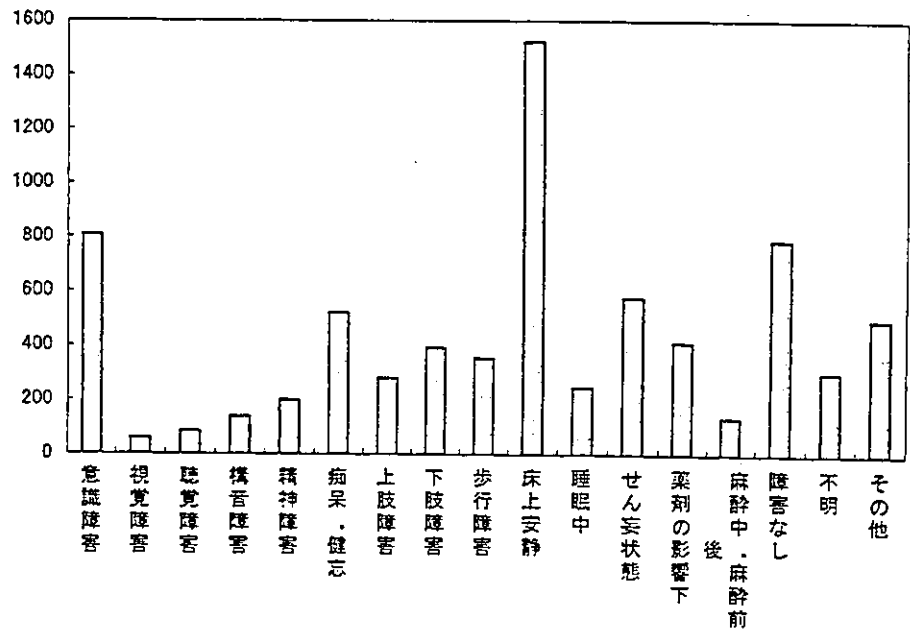


図3-8. 発見者(ドレーン・チューブ)

発見者	件数
当事者本人	2896
同職種者	1181
他職種者	173
患者本人	169
家族・付き添い	100
他患者	21
不明	2
その他	121
合計	4663

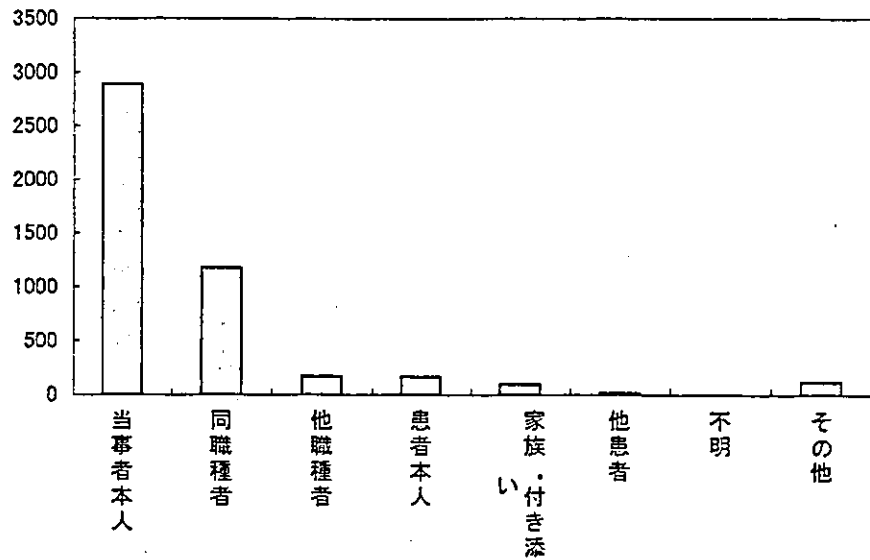


図3-9. 当事者の職種(ドレーン・チューブ)

当事者の職種	件数
医師	121
歯科医師	0
助産師	39
看護師	4419
准看護師	72
看護助手	3
薬剤師	3
管理栄養士	0
栄養士	0
調理師・調理従事者	0
診療放射線技師	10
臨床検査技師	2
衛生検査技師	0
理学療法士	7
作業療法士	1
言語聴覚士	3
歯科衛生士	0
歯科技工士	0
視能訓練士	0
精神保健福祉士	0
臨床心理士	0
社会福祉士	0
介護福祉士	0
臨床工学技師	4
児童指導員・保育士	2
事務職員	1
不明	4
その他	27
合計	4718

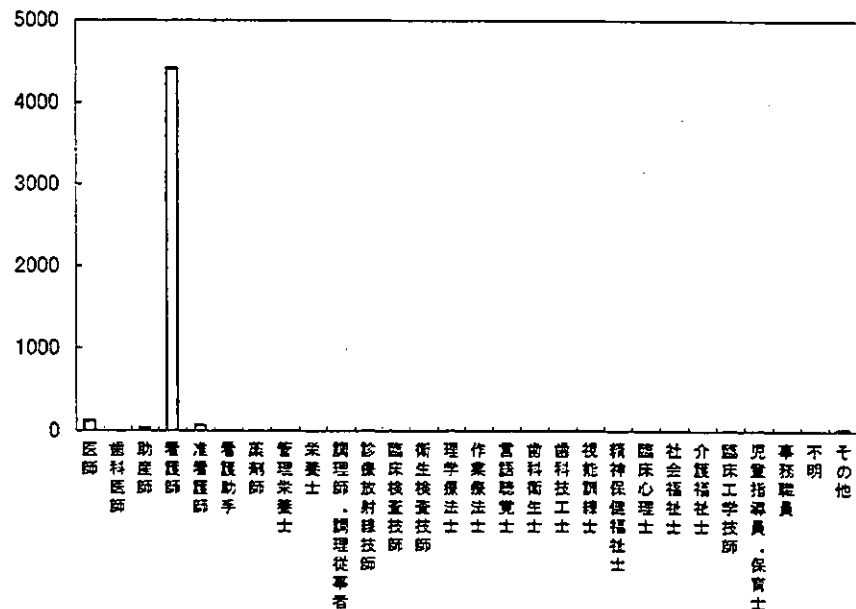


図3-10. 職種経験年数(ドレーン・チューブ)

当事者の職種経験年数	件数
0年	899
1年	597
2年	456
3年	413
4年	338
5年	282
6年	208
7年	200
8年	125
9年	118
10年	114
11～20年	538
21～30年	222
30年超	23
当事者複数	60
年数不明	70
合計	4663

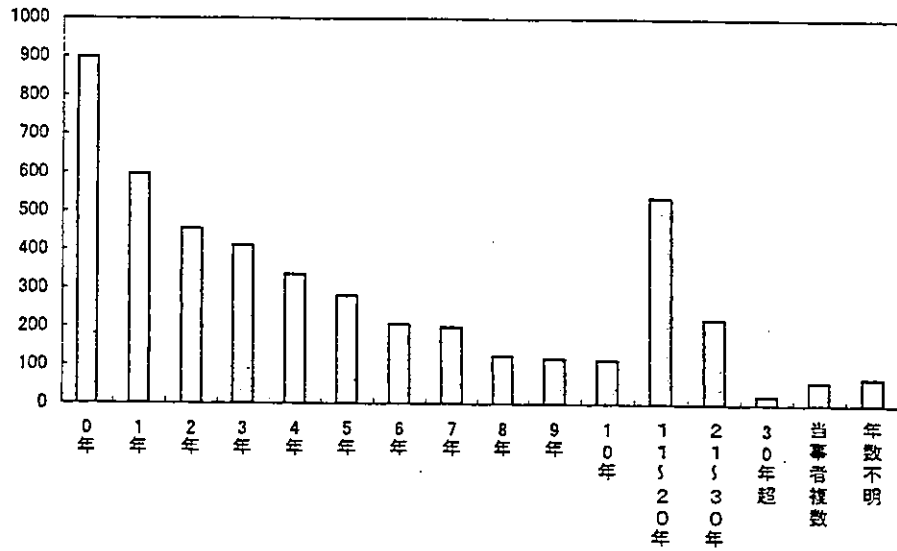


図3-11. 部署配属年数(ドレーン・チューブ)

当事者の部署配属年数	件数
0年	1531
1年	864
2年	620
3年	497
4年	307
5年	222
6年	127
7年	101
8年	62
9年	32
10年	20
11～20年	59
21～30年	9
当事者複数	60
年数不明	152
合計	4663

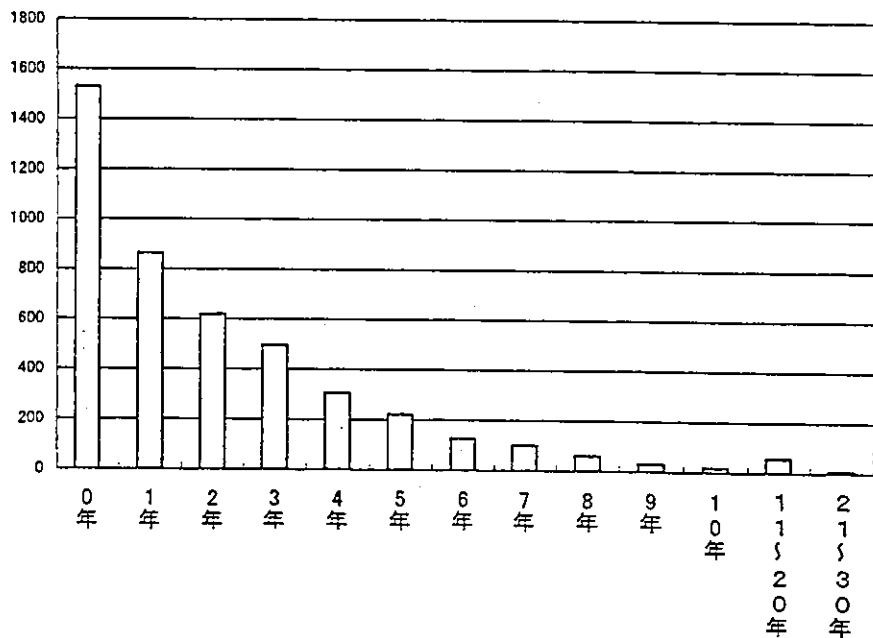


図3-12. 発生場面・詳細(ドレーン・チューブ)

発生場面	件数
中心静脈ライン	1014
末梢静脈ライン	997
動脈ライン	129
気管チューブ	356
気管カニューレ	174
栄養チューブ(NG・ED)	876
尿道カテーテル	243
胸腔ドレーン	110
腹腔ドレーン	54
脳室・脳槽ドレーン	64
皮下持続吸引ドレーン	35
硬膜外カテーテル	103
血液浄化用カテーテル	55
三方活栓	104
その他のドレーン・チューブ類の使用・管理に関する場面	349
合計	4663

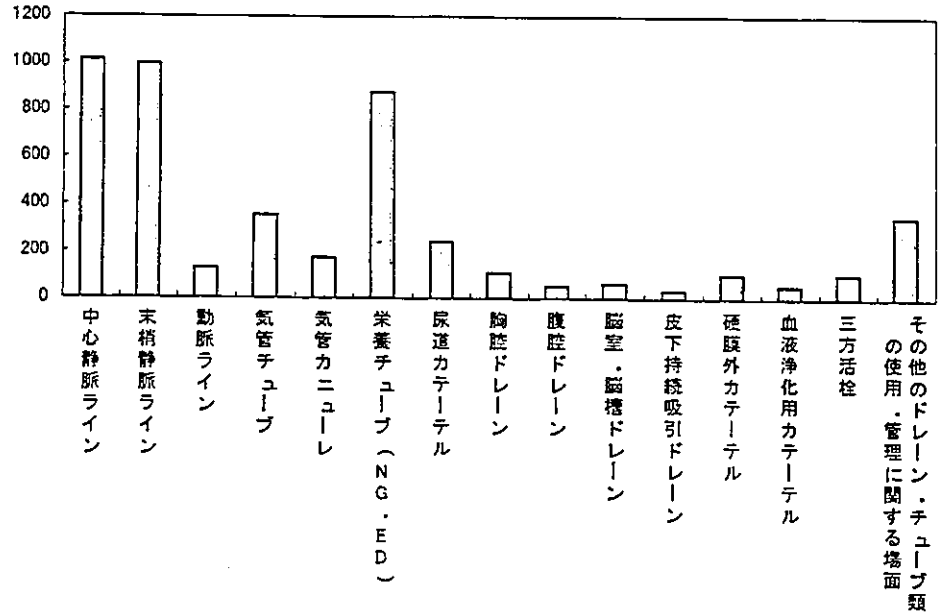


図3-13. 発生内容・詳細(ドレーン・チューブ)

発生内容	件数
点滴漏れ	83
自己抜去	2260
自然抜去	568
接続はずれ	553
未接続	15
閉塞	238
破損・切断	227
接続間違い	62
三方活栓操作間違い	94
ルートクランプエラー	99
空気混入	19
ドレーン・チューブ類のその他のエラー	401
指示出し・指示受け・情報伝達忘れ	1
指示出し・情報伝達のその他のエラー	1
方法の誤り	3
日程・時間の誤り	1
診察・治療等のその他のエラー	1
過剰与薬	1
投与速度速すぎ	4
その他の投与速度のエ	1
その他の療養上の世話・療養生活のエラー	2
中止の忘れ	1
その他	28
合計	4663

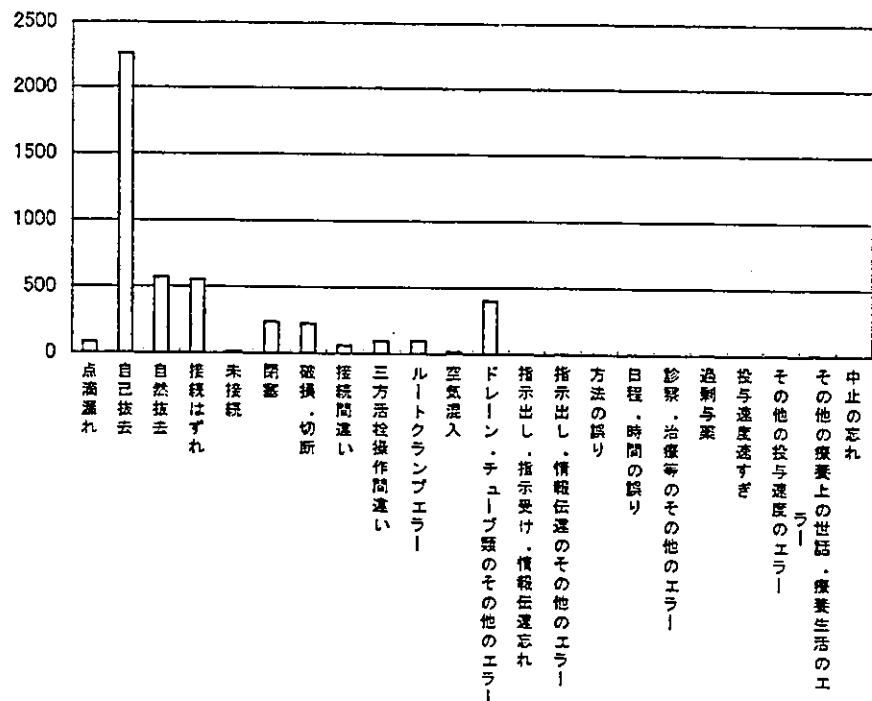




図3-14. 発生要因(ドレーン・チューブ)

発生内容	件数
確認	1757
観察	2200
判断	914
知識	188
技術	218
報告等	28
身体的条件	74
心理的条件	414
システム	31
運送	314
記録等の記	3
患者の外見	0
勤務状況	950
環境	45
医療機器・器 具・医療材料	129
薬剤	11
標物品	53
施設・設備	5
教育・訓練	155
患者・家族へ の説明	542
その他	130
合計	8151

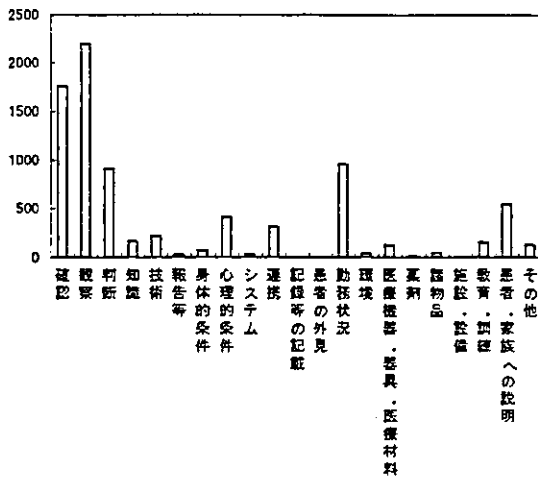


表3-1. 発生要因・詳細(ドレーン・チューブ)

要因	発生要因	件数
観察	観察が不十分であった	2200
	確認が不十分であった	1757
勤務状況	多忙であった	457
	勤務の管理に不備	6
	作業が中断した	20
	当直だった	6
	当直明けだった	3
	夜勤だった	450
判断	夜勤明けだった	18
	判断に誤りがあった	914
心理的状況	慌てていた	139
	イライラしていた	22
	緊張していた	22
	他のことに気を取られていた	104
	思い込んでいた	100
	無意識だった	27

図3-15. 影響度(ドレーン・チューブ)

影響度	件数
実施前発見：患者への影響は小さい(処置不要)	466
実施前発見：患者への影響は中等度(処置必要)	288
実施前発見：患者への影響は大きい(生命に影響しうる)	48
間違いが実施されたが患者に影響がなかった	3422
不明	3
その他	436
合計	4663

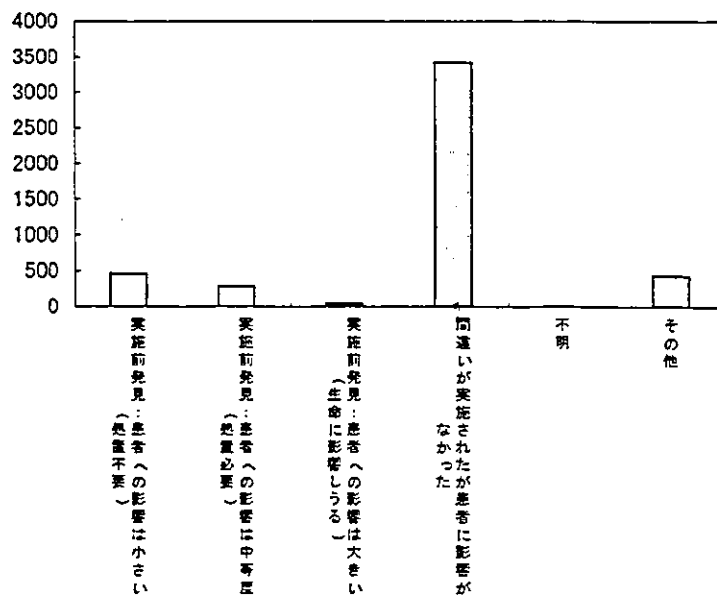


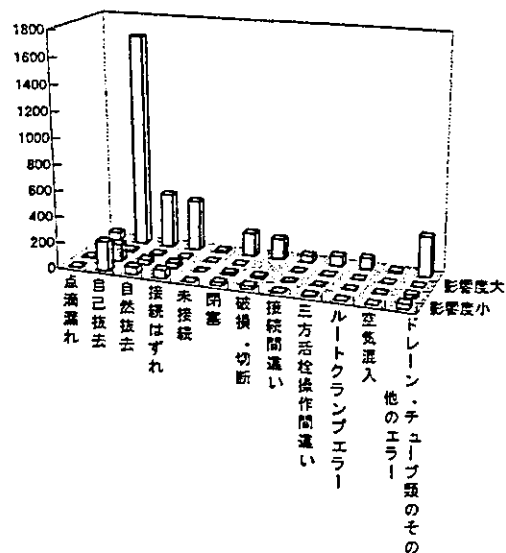
表3-2. 発生場面×発生内容(ドレーン・チューブ)

	点滴漏れ	自己抜去	自然抜去	接続はずれ	未接続	閉塞	破損・切断	接続間違	三方活栓操作間違	ルートクランプエラー	空気混入	ドレーン・チューブ類のその他のエラー	合計
中心静脈ライン	22	371	102	142	1	124	84	27	31	27	9	60	1000
末梢静脈ライン	52	457	60	218	6	40	31	10	15	19	2	73	983
動脈ライン	0	77	24	11	0	1	1	2	3	0	0	9	128
気管チューブ	1	229	77	7	0	3	9	0	0	0	0	29	355
気管カニューレ	0	75	63	3	0	2	5	1	0	0	0	24	173
栄養チューブ(NG・ED)	4	658	95	32	4	17	12	8	0	9	0	34	873
尿道カテーテル	0	145	20	9	0	13	16	2	0	8	0	29	242
胸腔ドレーン	0	10	27	27	1	2	3	1	2	6	2	29	110
腹腔ドレーン	0	17	15	6	0	2	2	2	0	2	0	8	54
脳室・脳槽ドレーン	0	16	4	2	0	7	4	0	0	13	0	18	64
皮下持続吸引ドレーン	0	12	5	4	0	2	1	0	0	5	0	6	35
硬膜外カテーテル	1	23	22	21	0	2	21	1	0	1	1	7	100
血液浄化用カテーテル	0	13	5	6	0	0	2	2	0	4	3	19	54
三方活栓	1	1	0	32	1	8	11	2	41	0	0	6	103
その他のドレーン・チューブ類の使用・管理に関する場面	2	156	49	33	2	15	25	4	2	5	2	50	345
合計	83	2260	568	553	15	238	227	62	94	99	19	401	4619

10

図3-16. 発生内容×影響度(ドレーン・チューブ)

	影響度小	影響度中	影響度大	間違いが実施されたが影響	不明	その他	合計
点滴漏れ	7	6	1	59	0	10	83
自己抜去	225	135	16	1650	1	232	2260
自然抜去	56	38	10	418	0	46	568
接続はずれ	63	41	7	387	0	55	553
未接続	0	0	0	14	0	1	15
閉塞	24	17	4	178	0	15	238
破損・切断	24	18		156	0	29	227
接続間違	5	2	2	51	0	2	62
三方活栓操作間違	9	2	0	76	0	7	94
ルートクランプエラー	2	2	0	86	0	9	99
空気混入	2	1	1	15	0	0	19
ドレーン・チューブ類のその他のエラー	38	23	5	307	2	25	401
合計	456	285	46	3397	3	431	4619



全般コード化情報

医療機器の使用・管理  
(単純集計・クロス集計)

図4-1. 発生月(医療機器)

発生月	件数
1月	84
2月	92
3月	63
4月	93
5月	110
6月	115
7月	101
8月	75
9月	75
10月	98
11月	87
12月	72
不明	5
合計	1070

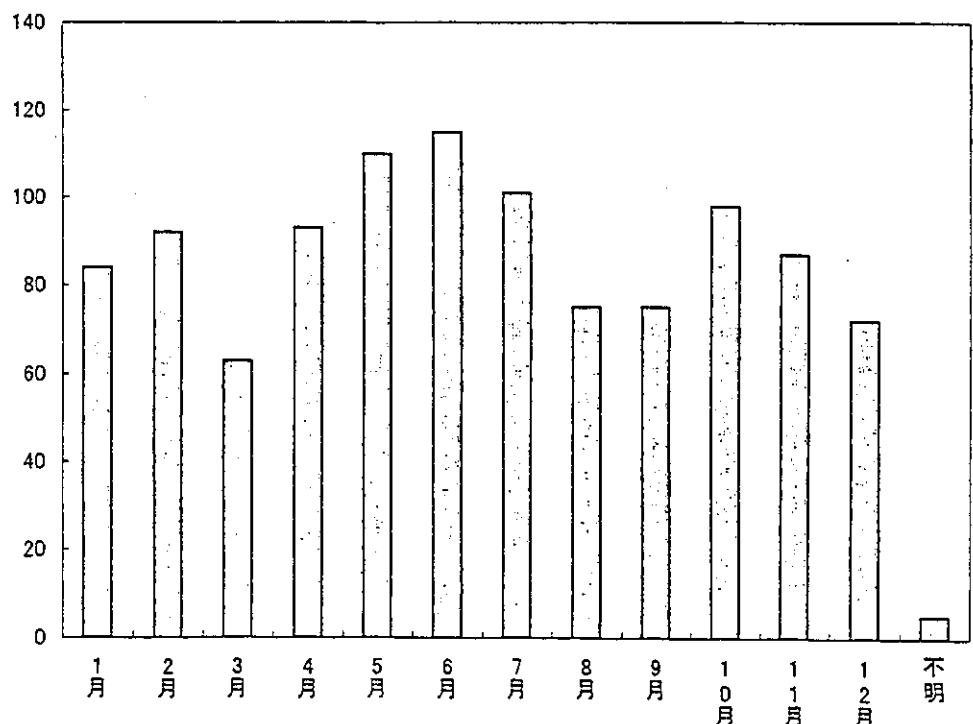


図4-2. 発生曜日(医療機器)

	平日	祝祭日	不明	合計
月曜日	144	14	0	158
火曜日	148	0	0	148
水曜日	193	0	0	193
木曜日	166	4	0	170
金曜日	165	4	0	169
土曜日	60	55	0	115
日曜日	0	110	0	110
不明	1	0	6	7
合計	877	187	6	1070

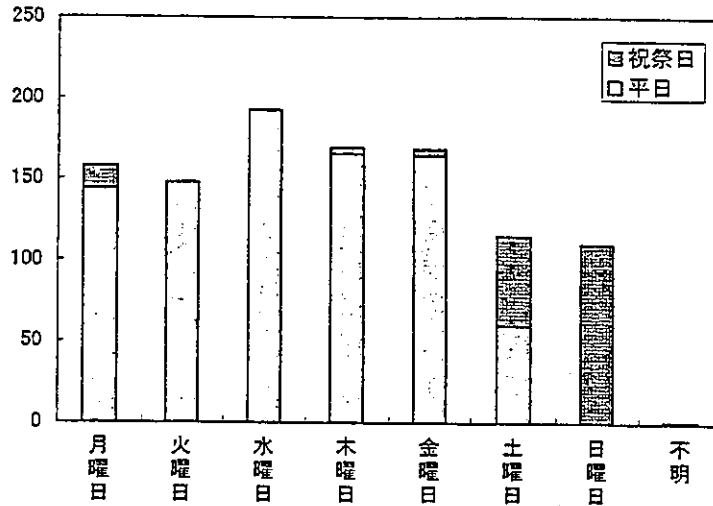


図4-3. 発生時間帯(医療機器)

発生時間帯	件数
0~1時台	53
2~3時台	52
4~5時台	38
6~7時台	53
8~9時台	119
10~11時台	157
12~13時台	93
14~15時台	142
16~17時台	137
18~19時台	69
20~21時台	58
22~23時台	59
不明	40
合計	1070

